

区政会議で特にご意見を求めたい内容

委員氏名 讃井 茂行 森田 春美

番号	部会・全体会	担当課	ご意見を求める内容	参考資料と頁	委員からのご意見	区役所の対応・考え方
1	福祉	保健福祉課 子育て支援	本市には生活困窮や虐待などの理由により実親と離れて暮らす子どもたちが約1,100人おり、そのほとんどが乳児院や児童養護施設で暮らしている。 本市では、里親委託推進を図るため里親制度の普及啓発・リクルート、研修、マッチング、里親養育支援等の一貫した里親支援業務を行い、里親等委託率の向上をめざしている。 港区においても、まずは短期間（数日～1か月間）の養育里親から始めていただき、各校下内に1件の協力家庭の設置が理想と考える。里親への理解を進めていくためにはどのような取り組みが有効か		里親制度の成功例をアピールして里親になるハードルを下げるようにして里親希望者が増えるとよりいいマッチングができるのではと思います。 私は週末里親をしています。 きっかけは入船寮の先生から寮の子どもたちの生活についてのお話をお聴きしたことです。 先生は、支援の物資やお金は集まるのですが、子どもに家庭生活を体験させてくれる機会がない。というお話をされました。家庭生活の体験というと、例えば私たちが当たり前のように昨日の夕飯の残りを次の日の食事として食べたり、お風呂の蓋をしてからお風呂をあがる。など、です。寮では三度三度食事が用意され、前日の残りなどは残飯のように感じてしまうということだそうです。また、お風呂も大きな浴槽のためそもそも蓋がないそうです。そんなお話をお聴きして「親」にはなれないけど、体験なら我が家でしてもらえんと思いました。自宅に帰り主人に話をして主人や子どもたちにも賛成してもらい現在に至ります。里親と聞くとハードルが高い気がしますが、体験を提供するホストファミリー的なものと考えれば最初の一步は出やすいのかな。と、感じます。 主人も、子どもさんがその年齢に見合った思い出を作って欲しいと考えて、遊びに連れて行ったりしています。 何が有効なのかはわかりませんが、私の場合は「体験」という言葉がキーワードでした。 もちろん子どもさんを迎えた後の心のケアや試し行動もあるので、そこは担当の職員さんとのコミュニケーションが大切ですし、何か問題が発生した時の相談窓口があると安心だと思います。	里親を始められるきっかけや里親の役割等についての体験をご紹介いただき、里親を検討いただいている方に大変、参考になる貴重なご意見をありがとうございます。ご紹介いただいたのは児童福祉施設で生活をする子どもを月に1～2回の週末や長期休みに迎えて家庭生活の体験を行っていただく週末里親になります。 里親には養子縁組を前提とする養子縁組里親のほかに、子どもがもとの家庭で生活ができるようになるまで、また自立できるようになるまでの一定期間家庭で養育していただく養育里親があります。1週間、家庭で預かっていただきたい赤ちゃんや1か月預かっていただくことで学校を転校せずにすむ子どもといった短期間の預かりを必要とするケースも多くあります。引き続き、この度のご意見のよう体験談や成功例等を紹介することで、ハードルを下げ、里親について知っていただく様々な機会を設けるとともに、里親へのサポートの充実等をはかり、協力家庭を増やしていけるよう取り組んでまいります。